

Daichikyo News

# 大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第24号

## 1人1人の自分らしい生活を支えるために

社会福祉法人柿の木福祉の園長居西地域在宅サービスステーションながいの里は介護保険制度開始とともに設立し今年で創立24年目を迎えます。高齢部門はデイサービスセンター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所の3事業所で運営しています。

保育部門は長居保育園、長居保育園乳児センター、長居子どもの家を運営しており、基本理念「キリスト教の愛の奉仕の精神(隣人愛をもって地域の人々の自分らしい生活を支える奉仕の精神)」を基本とし法人全体で運営理念を掲げています。

デイサービスは地域密着型通所介護であるため、1人1人に寄り添ったケアの提供を行うことができ、個性を生かした支援に取り組んでおります。

地域の事業所ケアマネージャー様やご家族様からの、「ながいの里なら大丈夫。」「安心してお任せできる。」「ここでなら何とかしてくれる。」そんなうれしい言葉をたくさんいただき、日々の運営の糧になっています。

前理事長である宮川ヒサ先生、長生先生も自らながいの里へ出向き、地域の方々と共に施設を作り上げてきたこと、私自身も思い受け継ぎ個々に寄り添ったケアの提供を職員一同で心掛けています。

地域で活躍するボランティアさんにも活動する場の提供としてデイサービスでのレクリエーション活動に参加していただき、一緒に施設を作り上げていくことにも力を入れております。

制度に縛られる介護保険ですが、その中でも社会福祉法人の使命として地域貢献・社会貢献を念頭に置きながら公益的な取り組みについても考えていく必要があると実感しております。これから大地協の加入施設の皆様と共に考え・学ぶこと期待し、感謝申し上げます。地域の中での施設の在り方や役割について保育部門・高齢部門共に法人全体の課題として社会福祉の目指す地域共生社会に向けて取り組み、成長していきたいと思っております。

社会福祉法人 柿の木福祉の園  
長居西地域在宅サービスステーション ながいの里  
所長 北田 優

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《 広報宣伝部 》

発行日：2024年9月 第24号

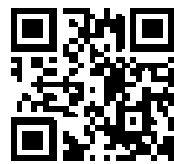
担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど  
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。



# 風の子保育園と私の1年そしてこれから

私は現在、社会福祉法人、水仙福祉会の風の子保育園において保育士として勤めています。今年で2年目のまだまだ新人ではありますが、日々周りの先生方に助言を頂きながら、子どもたちも保護者の方々も、そして職員である私たちも安心して心地よく過ごすことができる、そんなクラスづくりを目指して奮闘している毎日です。

さて、私が所属する風の子保育園はとても古い歴史があります。この風の子保育園は障がい児保育（統合保育）を昭和46年に開始し、縦割混合保育を49年に開始し現在もそれらは続いています。そして、この障がい児保育、縦割混合保育、さらに自由保育を含めた3つを柱とし、一人ひとりの人格と個性を大切に、園と家庭とで育てる子どもを目標に掲げています。

昨年秋コロナが落ち着いてから、久しぶりに園での秋まつりが行われました。保護者の方々のお手伝いはもちろん、読み聞かせのボランティアさん、法人内の施設の職員の方々、卒園児の保護者の方などの沢山のご協力があり、大盛況でした。年齢別の絵本の読み聞かせや、保護者の方と職員のステージ発表など、卒園した子どもたちも久しぶりに会いにきてくれたりと、あちこちで楽しい声や素敵な笑顔を見ることができました。自分が今保育している子どもたちが、大きくなってから会いにきてくれるようなイベントを、これからもずっと続けていきたいと思いました。卒園しても、「先生！」と笑顔で遊びに来ている子どもたちを見て、何年たっても、帰ってくる場所があるということは、とても貴重なことだと感じました。

風の子保育園では各クラスでふれあい会というものがあり、子どもと保護者とで参加し、クラスで交流を深めるイベントです。私のクラスでは8月にふれあい会で、プール遊びをしました。風の子ベビーホームの屋上で大きなプールと噴水プールを用意しました。どんなことをしたら、子どもも大人も楽しめるか、どんな手作りおもちゃが喜ばれるか、など保護者の方と一緒に考えました。そして、ボールを転がして遊ぶおもちゃや、ボトルキャップの金魚やペットボトルで作ったバケツを準備して下さったり、各家庭で氷を作ってきて、プールの中に入れてみたり…。初めて自分が保護者の方と一緒に進めていく行事だったので、楽しみな気持ちと同時にプレッシャーもありましたが、子どもも大人も、自分自身もとても楽しむことができました。園では見ることができない保護者の方が全力で遊ぶ姿や、子どもたちの嬉しそうな姿も見ることができて、とてもいい機会になりました。

2年目になり、日々楽しいことや、難しいことはありますが、保護者の方に、子どもとのエピソードや、日中あった心が動かされた話をする事など、たくさんお話できるようになってきました。しかし、保護者の方にしっかりとしたアドバイスをしたり、踏み込んだ話をしていくことはまだ難しさを感じているところがあります。

「園と家庭で育てる子ども」という大きな柱を大切に、懇談会で保護者の方の悩みや手応えを聞かせてもらうのはもちろんですが、楽しいイベントを企画したり、子どもたちの素敵なお話を、たくさん伝えられることが、今自分にできることだと感じています。保育士としての成長はもちろん、人としても子どもと一緒に成長していけるよう、これからも子どもたちと楽しく素敵なお思い出を作っていきたいと思っています。



社会福祉法人 水仙福祉会  
風の子保育園 井出 梨那



# 大地協活動のご案内

## ★ 『わっしょい!!金塚』 ～ 地域と共に大地協 ～

日時 2024年11月30日(土) 11時～16時(予定) / 会場 金塚ふれあい西公園グラウンド

## ★ 2024年度 全国地域福祉施設研修会 第23回 児童部会

日時 2024年12月14日(土)午後2時30分から午後9時

テーマ『子どもの権利と居場所について』= 地域にたくさんの居場所をつくろう = / 会場 大阪市住吉区 [長居保育園]

参加費 4000円(懇親会含む) 学生無料

申込み 11月30日(土) 締切 / 右記Googleフォームからお申込みください。→→→→



## ★ 第29回全国地域福祉施設研修会《大阪大会》 / 日時 2025年2月14日(金)～2月15日(土)

テーマ『町を歩こう ～福祉の心を文化に～』 / 会場 大阪市阿倍野区 [大阪キリスト教短期大学]

申込み 12月申込み開始予定 研修会内容や申込みなどについて今後、随時大地協HPにてお知らせいたします。

# 地域の子育て支援研究会の活動と学び

皆さま、初めまして。私は昨年度より地域の子育て支援研究会に仲間入りさせて頂いてます、育徳園保育所の山本と申します。大地協との出会いはもうずいぶんと前… 私が小学生の頃です。その頃は私も毎年夏 休みはセツルの家へ行き、ともだち運動会にも参加していました。そして育徳園に入職して20年が過ぎ、大地協とのつながりもずいぶん長くなりました。子育て支援研究会や企画委員会に参加する機会があり、子どもたちのためにたくさんの保育士が力を発揮する場所なのだと、今さらながらひしひしと感じています。子育て支援研究会では他施設の方と色々な情報交換をしたり、テーマ学習を決め学びを深めています。今年度は ～違っていいと感じる心が育つために～・性の違和を感じる子どもと共に～ という内容です。いろいろ意見を出し合う中で当事者の方のお話が聞けたらな…という意見がたくさん



《 地域の子育て支援研究会の皆さん 》

出て、ご縁があり6月に講師をお招きし研修会をすることができました。研修会では「性に違和感のある子どもたちへの関わり」として多方面でLGBTについての活動をされている山崎あおいさんにお越しいただき講演会を開催いたしました。当事者の方ならではの気づきや気持ち、こうした周りの配慮があったらもっといいのにな…というような貴重なお話を聞かせていただき、たくさんの参加者は今後の保育に役立つ、そんなお話を聞くことができました。打ち合わせを進める中で講師の山崎さんが保育園に通っていた時の保育士さんで、自分がまわりの子どもと違う姿もすべて素敵なお話だと認めてくれたことが嬉しくて当時はすごく救われたという心温まるエピソードも聞かせていただきました。

他にも研究会では保育のこんな時どうしてる?をもとに情報交換をしています。保育をする中で困ったとき、悩んだ時、ちょっとしたことでもいいので違う意見が聞けると、“こんなやり方があるんや”これ、さっそく実行できそう、など悩みを共有し、ワイワイと話しているうちに解決することもあります。

私のこれからの課題は、研究会で知ったことや情報などを自分の施設に持ち帰り保育現場で役立てていくことが使命かな…と思っています。色々な年代が一緒に仕事をする中で分かり合えること、サポートし合えることはいいことだなと感じて、これもこの研究会を通して意見交換ができたからこそだなと思っています。今後も新たな学びを深めていき自分自身の成長にもつなげていきたいです。皆様、是非一度参加してみてください。



# みんながって みんないい

大阪市住之江区にある愛染園南港東保育園です。現在、73人の園児が通ってくれています。毎日職員は日々奮闘しています。昔から住居として建っている南港前団地に、この3年の間に新しくたくさんの外国にルーツを持った家庭が住まれるようになりました。その流れから、我が南港東保育園にも入園を希望してくださる家庭が増えました。内訳としては、およそ6分の1の園児がベトナム、インドネシア、ネパール、中国、フィリピン、シンガポールなど外国にルーツをもつこどもたち。そんな保護者の方々は職を求めて来日された方、日本の技術を学ぼうと来られた方、母国では看護師の技術を持ちながら来日して介護職に就かれています方、語学の習得をしながら新しい職を求めてこられた方、安全な生活環境を求めてこられた方など、理由は様々ですが、今の日本にはなくてはならない存在の方々になっているのも確かだと実感させられる毎日を送っています。

保護者からの声の中に「保育園に入りたけれど書類の書き方がわからない」「たくさん持ち帰る手紙があるが、どれが一番重要な手紙なのかわからず、翻訳するのに時間と労力を費やし結局は読むことをあきらめてしまう」などの声もあります。どのようにすることが、一番ベストなのか？ベストは人それぞれ違い、求められるものも多種多様です。それでも、南港の職員は地域で出会う方に挨拶を通し、お手伝いできることは何だろうか、書類に関しては一緒に説明しながら記入をする、そして同じ母国語を話す先輩保護者たちの助けをもらいながら、より安心して通ってきてもらえる安全と安らぎのある保育園運営を日々考えているところです。

そんなきれいごとを書いています、我が保育園の職員からは「保護者との意思疎通が課題となっている」「手探りの対応をするしかなく不安だ」という声や、保護者の方に「水分補給ができるよう水筒にお茶を入れて持ってきてください」と伝えたエピソードでは、園側は麦茶を想定している、国によってはジュースやスポーツドリンクが水分と連想し、すれ違ってしまふこともたくさんあり、自分たち日本人の当たり前はみんなのあたりまえではないことを勉強させてもらう毎日で、より細かく分かりやすい言葉や表現で説明することをもとめられていることを実感し反省する毎日は、そんな時でも、保護者からは笑顔の日本語で『ありがとうございます』と声をかけてもらっています。

## 試行錯誤★ただいま奮闘中

保育現場では、こどもたちの安全のため生育歴や体調、ミルクや離乳食の進め方など保護者とのやりとりが欠かせません。しかし、日本語が堪能でない保護者が少なくないため、身ぶり手ぶりを交えたり、翻訳アプリに頼ったりしながらコミュニケーションをとっています。中でも、伝えるのが難しいのが、離乳食を含む食事対応の難しさです。乳幼児期にしっかりと土台をつくれるよう、食の安全を確保しながら食事の提供を進めていきたいのですが、外国にルーツを持つお子さんを受け入れるのには、かなりのハードルを乗り越えなければなりません。保育士や栄養士の加配というものはなく、いまの職員体制の中で個別に対応することに日々、職員は向き合っています。ほんとに頭が上がりません。(森の心の叫びです)

<食事の提供を行う中で、現在、取り組んでいる事>

3年前に0歳児クラスに入って来たイスラム教の園児が今の南港東保育園での宗教食対応のベースになっています。当初は【鶏肉・牛肉・豚肉・アルコール分・肉類のエキス分すべて除去】で、毎日豆腐でもいいから給食提供してほしいということでの受け入れてした。初めは離乳食でしたが、離乳食が進み幼児食に移行するにあたり、アルコール分の除去や肉エキスの除去まで継続していくのは食べられるものが限られてくるので、なかなか難しいということもあり、保護者の方と話し合い、【アルコール分と鶏肉エキス・牛肉エキスは提供する】ということをご承諾いただきました。それでも【鶏肉・牛肉・豚肉・豚肉エキスの除去】は続きます。そして、その宗教食の対応にはイスラム教の【肉類すべて除去】【豚肉除去】、ヒンズー教の【牛肉除去】の3パターンあり、今では14名の園児の対応を行っています。

代替食品は主に魚・えび・豆腐・ツナ・大豆ミートなどで、その時の調理法や味付けに合うようにバランスを考えて作っています。初めは日本食の味付けに慣れないからか、作ってもあまり食わずに残すことが多く、「個別に作ってるのに・・・」と残念な気持ちになる毎日でしたが、私たちも作り方を工夫したり、味付けも試行錯誤しながら作り続け、今ではおかわりしてくれる子もいます。治る可能性のあるアレルギーとは違い、宗教の対応は在籍する限りずっと続きます。宗教食の対応以外にも外国にルーツのある子どもたちは多く、食文化の違いや言葉の壁などいろいろと難しさを感じることはあります。でも、宗教食だけでなく、アレルギーや障がい、こだわりや偏食など、日本の子どもたちでも食の難しさを抱えている子はたくさんいます。どんな状況にある子どもであっても、園の食事を負担に思わず、おいしく楽しい時間を過ごしてもらえたら、また、食を通じて日本の文化や季節を知ってもらえるという思いで日々の給食を作っています。

